

- (1) ねらい 求残の場面について、金魚が5匹いる水槽から2匹とり、何匹になったか求める過程を問題に合うようにブロック操作をする活動を通して、求める数のまとまりに着目し、「全部から、とった残りをもとめるのがひき算」と減法の意味を理解し、式に表すことができる。
- (2) 評価規準 ブロック操作を通して、求残の意味を理解し、式で表している。(知識・技能)
- (3) 学習展開 (1/11)

過程	学習活動	教師の指導・援助（留意点）
導入	<p>1 いくつかといくつか (WEB 教材) に取り組む。</p> <p>2 ボールをかごから取る絵を見て、どんな場面か確認する。</p> <p>3 本時の問題を知り、内容を捉える。</p>	<p>【ICT活用の工夫】 WEB 教材を活用して、フラッシュ暗算形式で、既習事項の定着を図る。</p> <p>・「のこる」場面であることを意識させ、ボールが2個残ることを押さえる。</p> <p>・ペーパーサートを使って、1つ1つの場面を丁寧に押さえ、全員が場面把握できるようにする。</p>
展開	<p>【問題】のこりは なんびきに なりますか。</p> <p>4 本時の課題を確認する。</p> <p>おはなしに あうように ぶろっくを うごかして のこりの きんぎよの かずを しらべよう。</p> <p>5 個人追究・集団追究</p> <p>・ブロックを動かしながら、自分の考えをまとめる。</p> <p>①金魚が5匹います。 ②2匹とります。 ③のこりは3匹になります。</p> <p>6 ブロックの動かし方を発表する。</p> <p>・ブロックを使って、問題の「水槽に金魚が5匹います。2匹とりました。のこりは3匹になります。」を整理し説明する。</p>	
終末	<p>7 とった残りの量に着目し、式に表す。 式：$5 - 2 = 3$になる。答えは3匹</p> <p>8 まとめる。</p> <p>ぜんぶから とったのこりを しらべるときは ひきざんで もとめる。</p> <p>9 練習問題に取り組む。</p> <p>・場面を考え、ブロック操作を行い、式で表す。</p>	<p>【ICT活用の工夫】 ブロック操作の動きと、式との関連を手元投影機で示し、式の成り立ちの理解につなげる。</p> <p>・ブロック操作と式との関連が理解できない児童には、一緒にブロック操作を行い、式の成り立ちの理解を促す。</p> <p>・式で使われている数は問題文の中のどの部分であるかを問い、関連付けて捉えることができるように促す。</p>

【検証：期待される学習効果】

- ・個人追究と同じ道具を使って、ブロック操作がしやすい環境を生み出し発表するために、タブレットを手元投影機的に活用する。児童は、大きな黒板用ブロックではなく、扱いたれたブロックを使うことで、スムーズに考えを発表することにつながる。また、発表内容を録画することで、次時以降の導入で振り返ることができるよさもある。
- ※ICT を効果的に活用するために、目的に合うように教師が適切に判断することがとても重要である。はじめは、ICT の活用を考えず、ねらいの達成に向けた学習展開・活動を考え、その中で、ICT を活用することで学習がよりスムーズに効果的に進めることができるかを考え、活用場面を精選していくことが大切である。